

特集

外科医に必要な PET 検査の知識

その有用性と問題点

近年、FDG-PET 検査は画期的な癌画像診断法として普及し、わが国でも 2002 年より、肺癌・乳癌・大腸癌・頭頸部癌・脳腫瘍・膵癌・悪性リンパ腫・転移性肝癌・悪性黒色腫・原発不明癌の診断で保険適用となった。2005 年からは¹⁸F-FDG 注射液が診断剤として市販され、外科領域でも広く用いられるようになり、特に治療前の全身検索や再発の診断、治療効果判定に有用であると考えられている。

しかし、症例の集積に伴い、その診断能の限界も明らかになりつつある。

本特集では各執筆者に、外科領域においてどんなときに PET 検査を使用すべきか、またその診断能の限界はどこなのかなど、各種疾患の PET 検査の有用性や問題点などについて論じていただいた。